

この報告書は、図書館法の規定に基づく、いわゆる「図書館評価」をとりまとめ、公表するものです。

令和6年度 新潟県立図書館 運営基本方針重点目標に係る評価

1 評価項目（目標）

（1）基本方針1 地域社会への貢献

指 標	目 標	実 績	達成率	評価
ア ギャラリー展示の利用所属数 [県行政連携]	32所属	34 所属 ※重複除く	106%	A
イ コーナー展示の利用所属数 [県行政連携]				
ウ 県所属向け図書貸出の利用所属数				
エ 越後佐渡 DL アクセス件数	23,500 件	22,783 件	97%	B
オ 郷土人物/雑誌記事索引 DB アクセス件数	12,600 件	12,669 件	101%	A

（2）基本方針2 県内図書館への貢献

指 標	目 標	実 績	達成率	評価
ア 県内図書館等への協力貸出冊数	13,000 冊	12,915 冊	99%	B
イ 高等学校図書館への協力貸出冊数	500 冊	1,619 冊	324%	A
ウ 全体研修会・研究集会の参加人数 [県内図書館等職員対象]	350 人	332 人	95%	B
エ 個別研修の実施回数 [県内図書館等職員対象]	10 回	13 回	130%	A

（3）基本方針3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

指 標	目 標	実 績	達成率	評価
ア 入館者数	400,000 人	288,044 人	72%	D
イ 個人貸出冊数	415,000 冊	364,686 冊	88%	C
ウ 電子書籍閲覧回数	36,000 回	20,372 回	57%	E
エ レファレンス協同 DB 登録件数	40 件	42 件	105%	A
オ 絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	79,000 冊	70,632 冊	89%	C
カ SNS の投稿回数	120 回	136 回	113%	A
キ 外部講師による研修の参加回数	40 回	50 回	125%	A
ク 職員が講師を務める館内研修の回数	4 回	4 回	100%	A

2 図書館協議会による評価

（1）協議会の開催

・日時・場所 令和7年3月4日(火)新潟県立図書館・大研修室

（2）委員会とりまとめ

（1）における各委員の意見を千錫烈委員長（関東学院大学社会学部教授）がとりまとめ、図書館協議会による評価とした。

令和6年度新潟県立図書館運営基本方針 重点目標に係る取組状況

基本方針1 地域社会への貢献

・ 定量評価（5=100％以上 4=90～100％ 3=80～90％ 2=70～80％ 1=70％未満）
・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率 ・評価	自己評価	総合 評価	協議会意見
県の行政施策と連携した取組	県の行政施策をテーマとしたギャラリー展示の開催	・県各部局への周知 ・展示の実施	県立図書館を利用した所属数	32所属	○ ギャラリー展示は一般県民の利用とのバランスも図りながら、行政連携の充実に向けて各部局等へのPRに取り組んだ。 ＜実績＞ 4月 観光文化スポーツ部文化課「新潟出版文化賞受賞作品展」 7月 土木部道路建設課「にいがた「道」フォトコンテスト作品展」 7月 土木部河川管理課「7.13水害20年プロジェクト巡回パネル展」 11月 農林水産部林政課「にいがたフォレストリーマガジン写真展」 12月 環境局資源循環推進課「「海洋プラスチックごみ」削減パネル展」	34所属 内訳： ・ギャラリー展示 5所属 ・図書コーナー設置 13所属 ・図書貸出 16所属 ※重複除く	達成率 106％ 評価（5） 100％以上	○ 行政連携展示のPRに取り組み目標を達成するとともに、図書館所蔵貴重資料等の展示も実施してギャラリー展示の充実につけた。 ○ ギャラリー展示に関連したテーマ展示も連携して実施し、情報発信の充実を図った。	A	○ 「ギャラリー展示の利用所属数」や「コーナー展示の利用所属数」についても様々な部署からの展示があり、毎年リポートしてもらえるように各部署への周知を引き続きしてほしい。「県所属向け図書貸出」の利用も順調であり、県立図書館が情報提供を通じて県行政の支援が行われていることは評価できる。 ○ ギャラリー展示や図書コーナーの設置については、県の施策・業務を県民に知ってもらう機会として重要と考える。リポート利用も良いが、未利用の課への働きかけもお願いしたい。 ○ 県政を親子で知ることが出来るような展示を期待する。各課や博物館などでの資料の活用をもっと県民に発信しても良い気がする→そこから、県立図書館への興味関心につなげてほしい。
	県の重点施策に関連した図書コーナーの設置	・県各部局への周知 ・展示の実施			○ 県施策に関する図書のPR展示について、県職員専用ポータルサイトで利用の呼びかけを行っている。申込があった所属に対しては展示に関する要望をできる限り聞き取り、設置後は展示の様子を撮影した写真や利用状況を共有することで、実施の意義や効果を感じてもらえるよう取り組んでいる。 ＜実績・予定＞ 4月 文化課、新潟県発達障がい者支援センターRISE 5月 環境対策課・愛鳥センター紫雲寺さえずりの里、県立歴史博物館 6月 健康づくり支援課、生活衛生課、防災企画課 7月 県立万代島美術館、防災企画課 8月 観光企画課、県立歴史博物館、県民生活課 9月 障害福祉課、新潟県消費生活センター、県民生活課 10月 防災企画課、健康づくり支援課、統計課、県立歴史博物館 11月 健康づくり支援課、県民生活課、県立万代島美術館 12月 県民生活課、空港課 1月 資源循環推進課 2月 県立近代美術館、県立万代島美術館、新潟県消費生活センター			○ 今年度初めて利用した所属が複数あった。同じ課からの利用でも異なる係から依頼のあった事例も多く、幅広い内容の展示を実施できた。博物館や美術館とは双方のHPやSNSアカウントで広報するなど、連携して情報発信に取り組んだ。 ○ 庁内のネットワーク移行に伴い県職員専用ポータルサイトの利用頻度の減少が予想されるため、今年度利用した所属にリピーターとなってもらうためのフォローや、ポータルサイト以外の周知方法も検討していく。		
	県所属への図書貸出の実施	・県庁貸出の手続改善 ・県各部局への周知			○ 前年度に引き続き、県職員専用ポータルサイトでPRを行った。PRの内容について、利用する際のイメージがわかりやすいように、具体的な活用方法を示すなど修正を行った。 ○ 県行政を支える取組として、県各所属や職員への情報提供によるサポート体制の更なる充実を目指し、運用改善を図っていく。			○ 継続して利用する所属のほかに、ポータルサイトのお知らせを見て利用をしてみたいという所属もあった。今後も効果的な周知を行い、利用につなげていく。 ○ 県所属からは「課題の解決に役立った」というコメントがあり、活用がなされていることを実感することができた。		
文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用	新潟県関係資料の積極的収集と活用	・出版情報の多角的な把握 ・積極的収集と展示 ・書庫等の保存環境の整備 ・行政資料の収集・展示			○ 出版情報の収集から、資料を入手して受入するまでの一連の業務の効率化を図るため、作業を細分化し複数の職員で取り組んでいる。 ○ 昨年1月の能登半島地震以降中断していた閲覧室内でのテーマ展示を、7月から場所を移動し、転倒防止を施した上で再開した。再開後は県立歴史博物館の企画展「上杉謙信・景勝と越後の領主」「大・佐渡島展」と連携した展示を実施した。 ○ 当館主催の「地域映像の上映会」や文書館主催の歴史講演会の開催に合わせ、利用者の興味を引き出すテーマで展示を行い、郷土資料のPRに努めた。			○ 他機関事業と連携した展示を行うことで幅広い層へのアプローチにつながり、その結果、郷土資料の貸出実績は前年同期比でほぼ同程度を維持している。受入数も前年度並みであるが、引き続き出版情報の収集に力を入れ、より多くの郷土資料の提供に努める。 ○ 今年度は井上円了と巻菱湖の遺墨（掛軸）2点の寄贈を受け、1月に当館エントランスギャラリーで開催の「新春掛軸展」で展示した。		
	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	・デジタル資料の追加 ・利用環境の整備 ・利用者へのPR	越後佐渡デジタルライブラリーのアクセス件数	23,500件	○ デジタルライブラリーのトップ画面でデジタル化資料を様々な切り口で紹介しPRに努めるとともに、更新の都度、ホームページやSNSで情報発信を行った。またSNSでは、スレッド機能を利用したり、ユニークな画像を載せるなど、注目を集めるよう工夫した。 ○ 11月には、新潟県立自然科学館のイベントに県立図書館としてブースを出展し、デジタルライブラリーのPRポスターを掲示した。今後は県庁のポータルサイト等も活用し、新規利用者の開拓を図っていく。	22,783件 （前年度実績 23,048件 対前年度比 99％）	達成率97％ 評価（4） 90～100％	○ 各種取組によりアクセス件数は上昇傾向にあったが、受変電設備更新工事と停電によるサーバ停止期間にサービスを提供できなかったため、目標値には届かなかった。引き続き、SNS上でクイズ形式など人を惹きつける投稿を行って、認知度の向上を図ってきたい。 ○ 今年度末に実施する新規資料のアップロードに際しても、積極的にデジタル化資料の魅力発信に努める。	B	○ 「越後佐渡DLアクセス件数」や「郷土人物/雑誌記事索引」についても目標値水準となっており、引き続き新規資料の公開や活用事例等の発信を続けてほしい。 ○ 越後佐渡デジタルライブラリーは、貴重な資料が登録されているので、さらに魅力発信をお願いしたい。写真や錦絵など画像検索でできると利便性が高まるのではないか。 ○ 「越後佐渡DL」のトップ画面へのアクセス改善が望まれます。 ○ 「越後佐渡デジタルライブラリー」、期待しております。どういう資料があるのかを県内外の方に興味をもっていただきたいので、現在、NHKの大河ドラマに山東京伝が登場しているので、その関連として「北越雪譜」をたくさん紹介してはいかがでしょうか。
	郷土人物/雑誌記事索引データベースの充実	・データの登録 ・県民へのPR	郷土人物/雑誌記事索引データベースのアクセス件数	12,600件	○ 前年度から「としょかん探偵～データベース活用事例～」のページを新設し、県内の観光イベントやゆかりの人物をテーマにした調べ方を掲載し、ニーズの掘り起こしを試みている。 ○ 今年度もページの更新に加え、採録対象雑誌を追加し、データベースの充実に取り組んだ。また、更新の都度、ホームページやSNSで情報発信を行い、利用増加に努めた。	12,669件 （前年度実績 12,104件 対前年度比 105％）	達成率101％ 評価（5） 100％以上	○ 新規データの追加と、NDLレファレンス協同データベースやSNS等を活用して多角的に広報を展開したこと等によって、2月下旬以降アクセス件数が上半期比110％と飛躍的に伸び、目標を達成した。 ○ 郷土に関する調査・研究に役立ち、かつ目的とする資料を効率よく検索できるデータベースの利点を、活用事例等を通じて今後とも周知に努める。	A	○ 「郷土人物」の指標は、アクセス件数だけでなく、郷土資料の貸し出し冊数、郷土に関するイベント参加者数なども加える。 ○ 「越後佐渡DLアクセス件数」や「郷土人物/雑誌記事索引」についても目標値水準となっており、引き続き新規資料の公開や活用事例等の発信を続けてほしい。（再掲） ○ 郷土人物ですが、県内の偉人でも全国で活躍している方は、県外の書物にも意外な形で載っていることがありますので、国立国会図書館の検索機能でも確認いただけるとありがたいです。

基本方針2 県内図書館への貢献

・ 定量評価（5=100％以上 4=90～100％ 3=80～90％ 2=70～80％ 1=70％未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率 ・評価	自己評価	総合 評価	協議会意見
県内図書館等が実施するサービスへの支援	県内図書館等の貸出サービスへの支援	・県民へのPR ・小規模図書館等へのセット図書の貸出 ・テーマ別セット図書の貸出	県内図書館等への協力貸出冊数	13,000冊	○ 協力貸出やセット図書長期一括貸出に加え、市町村図書館等へのテーマ別図書セット貸出サービスを行った。 ○ 電子書籍サービスの体験会では、県立図書館のサービスを説明する機会も多いことから、県民に対して相互貸借や遠隔地返却等のサービスについても、積極的にPRを行った。	12,915冊 （前年度実績 12,538冊 対前年度比 103％）	達成率99％ 評価（4） 90～100％	○ 高等学校図書館への貸出が大幅に増加したことで前年度比実績では増加しているが、市町村図書館への貸出が年々減少している。セット貸出の評価や刷新の必要性を含め、聞き取り等により原因を分析し、改善可能な事項については随時対応していきたい。 ○ 今後も県立図書館の資料を市町村図書館から無料で取り寄せてできることを県民に向けてPRし、浸透を図っていきたい。 ○ テーマ別セット図書貸出サービスを利用する市町村図書館が増加した。定期的に利用される館もあるので引き続き周知につとめ、利用館を増やすような取組を続けていきたい。 ○ 高等学校図書館への貸出やテーマ別セット図書貸出サービスの実績は向上したが、資料費削減の影響により市町村図書館を通じた県民への貸出が減少したため、目標には及ばなかった。	B	○ 「県内図書館等への協力貸出冊数」は目標値はほぼ達成できたが、今後も目標値を達成するためには、新しい資料の充実やセット貸出のメニューの充実等の施策が必要であり、資料費の確保をしてほしい。
	県内図書館等からの相談対応	・内容に応じた適切な情報提供 ・相談・打合せなど、様々な機会を捉えた訪問の実施			○ 県内図書館等からの相談や照会について随時対応し、状況に応じて訪問やオンライン等で情報提供等の支援を行った。 【電話等による相談・照会等対応事例】 ・商業施設での読み聞かせ実演に係る著作権 ・県内の広域連携サービスの状況 ・逐次刊行物の複写の運用等 ・窓口での利用者対応 ・登録書式等の保存 【訪問相談の実績】 弥彦村図書館、十日町図書館、長岡市立中央図書館、上越市立高田図書館、村上市立中央図書館			○ 相談内容に応じた適切な回答や情報提供に努めるとともに、機会を捉えて各館を訪問するなどして、市町村支援の充実を図った。 ○ 次年度以降も県内図書館等からの要望に応えるとともに、定期的な訪問なども検討することによって、引き続き相談対応業務の充実を図っていく。		○ 相談対応や研修の実施により、県内図書館のサービス力の向上に貢献していただいており、感謝している。
	高等学校図書館への支援	・高等学校への訪問相談 ・協力貸出の推進	高等学校図書館への協力貸出冊数	500冊	○ 所在する自治体の公立図書館等が移転等により長期休館し、窓口での資料受取りができない県立学校を対象に、当該図書館の休館前後期間限定で直接学校へ資料を送付する運用を開始し、対象となる自治体内の県立学校へ周知した。 ○ 学校向け電子書籍サービスの説明会の際に、資料貸出サービスのPRも行った。	1,619冊 （前年度実績 489冊 対前年度比 331％）	達成率 324％ 評価（5） 100％以上	○ 公立図書館を通じた高校への貸出サービスは前年度と同数の12校の利用があり、冊数は前年度比で330％増加した。加えて公立図書館の休館に対応するため、新たに実施した学校への直接送付については、2校の利用があり、ニーズがある事を確認できた。 ○ 県立学校司書の研修を通じ、学校司書のインターネット利用環境が不十分な場合もあるなど、学校司書まで当館のサービスの情報が届いていないことが把握できたため、すべての学校司書に届くサービスの周知方法を検討していきたい。	A	○ 「高等学校図書館への協力貸出冊数」も目標値を大幅に達成した点は大いに評価できる。次年度も協力貸出が続けられるように、県立図書館側から協力貸出のあった高校への働きかけも行ってほしい。 ○ 協力貸し出しだけではなく、県立高校学校図書館の充実を期待する。
県内図書館等職員の人材育成	県内図書館等職員対象の全体研修の実施	・図書館現場のニーズに沿ったテーマの設定 ・階層別研修等の実施 ・オンラインとの併用	全体研修会・研究集会の参加人数	350人	○ 階層別研修・研究集会とともに、参加館のニーズに沿った内容で企画するとともに、オンラインも取り入れるなどして実施した。 ＜実績等＞ ①障害者サービス研修（第1回）（オンライン） 50人 ②新潟県公共図書館新任職員研修会 69人（1日目・会場20人 オンライン15人、2日目・会場20人 オンライン14人） ③新潟県公共図書館児童部門研究集会 41人 ④新潟県公共図書館中堅職員研修 34人 ⑤新潟県公共図書館総合部門研究集会（オンライン） 34人 ⑥障害者サービス研修（第2回）（オンライン）32人 ⑦障害者サービス研修（第3回）（オンライン）36人 ⑧新潟県公共図書館専門職員研修会 36人	332人 （前年度実績 358人 対前年度比 93％）	達成率95％ 評価（4） 90～100％	○ 図書館現場のニーズに沿った研修テーマや内容で企画し、一層の研修効果が得られるよう調整した結果、多くの図書館職員に参加してもらうことができたが、目標にはわずかに及ばなかった。 ○ 次年度以降も図書館サービスの向上につながるような研修を開催するとともに、参加者の利便性も考慮して一層のオンライン化を図るなどして、研修の充実を図っていく。また、ブロック規模の大会開催にあわせて市町村向け研修の更なる充実を図る。	B	○ 「全体研修会・研究集会の参加人数」は若干、目標値に届かなかったが、オンライン研修等の参加者が負担が少ない方法で実施されており、評価できる。 オンライン研修でも対面のように図書館員同士のコミュニケーションや交流ができる時間を設けるなどの工夫も検討していただきたい。 ○ 相談対応や研修の実施により、県内図書館のサービス力の向上に貢献していただいており、感謝している。（再掲） ○ 図書館職員の人材育成については、受講する立場から考えても、遠隔地在住の方が多いと思われることから、継続してオンライン利用ができると良い。
	県内図書館等職員対象の個別研修の実施（メニュー数4）	・受講者アンケートの実施 ・研修内容の改善	個別研修の実施回数	10回	○ 各館の要望を踏まえて研修を準備・実施し、各図書館等のサービス向上を支援した。 ＜実績・予定＞ ①資料の修理や保存の基礎（新潟市立黒埼図書館） ②資料の修理や保存の基礎（刈羽村立図書館） ③郷土レファレンス（新潟県埋蔵文化財センター） ④燕市教職員研修・図書館担当者研修（燕市立吉田公民館） ⑤郷土レファレンス（長岡市立互尊文庫） ⑥郷土レファレンス（新発田市立歴史図書館） ⑦郷土レファレンス（南魚沼市図書館） ⑧地域資料の収集と管理の基礎（新発田市立中央図書館） ⑨郷土レファレンス（長岡市立南地域図書館） ⑩地域資料の収集と管理の基礎（弥彦村図書館） ⑪資料の修理や保存の基礎（燕市立図書館） ⑫郷土レファレンス（三条市立図書館） ⑬資料の修理や保存の基礎（新潟医療福祉大学図書館）	13回 （前年度実績 10回 対前年度比 130％）	達成率 130％ 評価（5） 100％以上	○ 研修受講者アンケートや市町村との意見交換等での要望を踏まえて、より実践的な研修を実施できるように取り組んだ。 ○ 次年度以降も、ブロック規模の大会開催にあわせて市町村向け個別研修も更なる充実を図り、県内図書館サービスの充実につなげる。	A	○ 「個別研修の実施回数」についても先方からの依頼次第の実績になってしまいが、目標値を超えた実績を残しており、大いに評価できる。 ○ 相談対応や研修の実施により、県内図書館のサービス力の向上に貢献していただいており、感謝している。（再掲）

基本方針3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・ 定量評価（5=100％以上 4=90～100％ 3=80～90％ 2=70～80％ 1=70％未満）
・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	県民の読書環境の整備	・利用しやすいレイアウト変更等 ・資料の充実 ・電子書籍サービスの充実 ・読書バリアフリー環境の充実	入館者数	400,000人	○ 前年度に引き続き、SNSによる情報発信の更新頻度を上げるとともに、電子書籍サービスの利用をきっかけに直接来館利用にもつながるよう、電子書籍の体験会では図書館サービス全般について広く説明を行った。 ○ 利用者満足度の向上のために、館内利用環境の整備を図りながら、目標の達成を目指した。	288,044人 （前年度実績315,342人 対前年度比91％）	達成率72％ 評価（2）70～80％	○ 受変電設備更新工事や停電による臨時休館があったほか、通常休館日である月曜日が祝日と重なった場合の振替として、大多数の県と同様に翌火曜日を休館とすることとし、休館日が増えたため入館者数は目標に届かなかった。（開館日1日当りでは対前年度比99％） ○ 今後も、従来の図書館サービスに加えて電子書籍サービスや、コロナ以降控えていた連携イベント、ギャラリーや閲覧室内展示等をPRし、来館利用者の増加を目指して取り組んでいきたい。	D	○ 「入館者数」については変電設備の故障による休館等もあり、目標値には届いていないが、1日あたりでは前年比99％と健闘をしている。入館者の目標値が高いので、実情に合わせた目標値の変更も今後は検討をしていただきたい。 ○ 県立図書館の役割は、所在地から離れている県民に対しても図書館サービスを提供することだと思う。入館者数や個人貸出冊数の目標達成に拘りすぎると、新潟市在住の一部の利用者へのサービスに留まるのではないかと。 ○ 入館者数・貸出し数は特殊要因があるため、機械的評価に適しない気がするので、特例として評価外としたらどうか。 ○ 「入館者数」については目標が高すぎるかと思います。 ○ 入館者・貸出数とも目標値を割っているが、人口減少、高齢化、またフリーペーパーなども含め情報があふれている時代となっていることから、ある程度の減少はやむを得ないかと考える。 ○ 来館者数は近隣の県立の施設との連携など検討してみても良いのでは。イベントに合わせた特集を組む。出張図書館で隣の図書館にも足を運ぶなど（恐竜絵本・図鑑・星・・・）。 ○ 県民向けに、図書館活用講座など行えると利用促進になる気がした。
			個人貸出冊数	415,000冊	○ 資料費が年々削減されているが、今年度も限られた予算の中で効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各所属との連携展示を積極的に行って、資料の利用促進を図った。 ○ 厳しい予算状況ではあるが、市町村図書館から購入リクエストがあった場合は、県民のニーズに応えるため可能な限り購入するよう努めた。	364,686冊 （前年度実績416,761冊 対前年度比88％）	達成率88％ 評価（3）80～90％	○ 資料収集方針に沿って、より効果的・効率的な選書に取り組むとともに展示等による資料のPRを行ったが、資料費削減による新刊購入冊数の減少の影響が大きかった。 ○ 今後も、来館利用者の興味を惹き、資料を手にとってもらえるよう展示のテーマや見せ方をより工夫して所蔵資料の有効活用を図るなど、資料の有効活用に取り組んでいきたい。	C	○ 「個人貸出冊数」は入館者数よりも前年度比が低くなっており、資料費削減による新刊購入費の減少が直接的に影響している。県民に対して信頼性のある情報を的確に提供するためには資料費の増額が必須と考える。次年度以降の資料費の増額を強く求めたい。 ○ 県立図書館の役割は、所在地から離れている県民に対しても図書館サービスを提供することだと思う。入館者数や個人貸出冊数の目標達成に拘りすぎると、新潟市在住の一部の利用者へのサービスに留まるのではないかと。（再掲） ○ 入館者数・貸出し数は特殊要因があるため、機械的評価に適しない気がするので、特例として評価外としたらどうか。（再掲） ○ 入館者・貸出数とも目標値を割っているが、人口減少、高齢化、またフリーペーパーなども含め情報があふれている時代となっていることから、ある程度の減少はやむを得ないかと考える。（再掲） ○ 県民向けに、図書館活用講座など行えると利用促進になる気がした。（再掲）
			電子書籍閲覧回数	36,000回	○ 昨年度に引き続き、県内各所で県民向けの体験会を開催した。新潟市民芸術文化会館等のホールにも出向き、普段図書館を利用していない県民へ向けての周知にも取り組んだ。また、館内イベントや県内図書館職員との会議・研修会の際にも、電子書籍サービスのPRを行った。 ○ 県立学校に向けたサービスも昨年同様に実施しており、今年度は私立高等学校に対しても、学校向け電子書籍サービスの提供を開始した。 ○ トップページの本棚のテーマを3か月に1度変更した。また、12月に新着コンテンツを導入した際は、新着からのおすすめコンテンツを紹介したほか、HPのお知らせ欄やメールマガジン、館内配布チラシでもPRを行った。	20,372回 （前年度実績24,653回 対前年度比83％） ※令和6年7月11日よりサービス開始	達成率57％ 評価（1）70％未満	○ 受変電設備更新工事や停電による臨時休館中は、サーバーが稼働せずサービスが提供できなかったこともあり、目標に届かなかった。 ○ 体験会を開催する度に利用登録の申請があったが、閲覧回数の増加には直接結びつかなかった。オンラインでの利用登録申請も継続してあることから、コンテンツの魅力の発信等を通じて、サービスの継続利用につなげていきたい。 また、体験会ではサービス自体を知らない県民の方が大半であったため、全体的にサービスの再周知を行いたい。 ○ 新規コンテンツの購入にあたり、県財政当局との協議に時間を要し、購入・公開が予定通りに実施できず、広報も一部しかできなかった。未実施の広報を来年度に展開できるよう取り組んでいきたい。 ○ 学校向けの出張説明会を実施し、学校図書館現場の意見を聞くことができたため、今後の学校向けサービスの充実に活かしていきたい。	E	○ 「電子書籍閲覧回数」についても新鮮なコンテンツがないと利用が伸びないため、図書と同様に電子書籍にも継続的な資料費の確保が必要である。県内の図書館との電子書籍コンテンツの統一の施策に期待をしたい。 ○ 電子書籍サービスは、県立図書館から遠くに離れた県民にも利用しやすい。 県民のニーズに合った電子書籍コンテンツを導入してもらいたい。 ○ 電子書籍貸し出しサービスの更なる活用促進に期待する。
			県内の読書バリアフリー環境の充実		○ 県視覚障害者情報センターと連携して市町村図書館職員向けの障害者サービス研修を行い、県内における障害者サービスのボトムアップを図った。 ○ 資料費の限られる中で、読上げ、白黒反転表示等のバリアフリー機能を持つ電子書籍や大活字本、LLブック、触る絵本等の障害者サービス用資料の充実を図った。 ○ 電子書籍の体験会では、ニーズに合わせてサビエのPRも行った。 ○ 民間の福祉関連イベントに出向き、障害者サービスのPRを行った。			○ 対面朗読サービスや音声ディジーが継続して利用されている。今後も広報を続けて普及を図っていく。 ○ 利用者が視覚障害の有無にかかわらず、触る絵本を借りて行くような状況も生まれている。障害者サービスへの理解・普及のためにも、引き続き資料を充実させていきたい。		○ 市町村図書館と連携してバリアフリー環境の推進と充実を求む。

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	実績	達成率・評価	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	県民の調査研究活動の支援	・調査相談（レファレンス）機能の向上 ・県民へのPR	レファレンス協同データベースの登録件数	40件	○ 利用者から寄せられた調査相談から、主に郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動に資するものや関心が高い事例を精査して登録を行っている。 ○ 調べ方マニュアルについても、新たに登録を行う予定にしている。	42件 （前年度実績 44件 対前年度比 95%）	達成率 105% 評価（5） 100%以上	○ スケジュール通りに作業を進め、登録事例を選定・精査しつつデータを作成した。県民の調査研究活動を支援するため、引き続き目標件数を達成するよう取り組んでいきたい。	A	○ 「レファレンス協同DB登録件数」は過去の掲載事例の更新をしっかりと行っており評価できる。次年度は新規の事例登録も期待したい。
	読書による子育て応援	・こども向けイベントの実施 ・利用環境の整備	絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	79,000冊	○ こども図書室内に、赤ちゃん絵本のコーナーを新設した。室内はマット敷で寛げるようになっており、ゆったり絵本を選んだり、読み聞かせを楽しむことができる空間を提供している。 ○ ボランティア及び職員による定例の読み聞かせイベントの継続実施に加え、新規の図書館利用増を目指して、こむすびルーム関連のイベントに合わせて、職員によるおはなし会を開催した。	70,632冊 （前年度実績 77,650冊 対前年度比 91%）	達成率89% 評価（4） 90～100%	○ 資料費減によって所蔵資料全体の魅力が低下しているため、こども連れの親を含めた入館者数や個人貸出冊数も減少しており、目標達成が困難な状況になっている。図書館利用の全体的な減少に歯止めをかけることはできなかった。 ○ こむすびルーム開設イベントをきっかけに、利用登録につながった事例もあった。また、開設イベントに合わせて開催したおはなし会は、通常の倍以上の参加があった。 ○ 次年度以降も、こむすびルームやイベントと連動した児童サービスの充実を図っていきたい。	C	○ 「絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数」については、「こむすびルーム」や「赤ちゃん絵本コーナー」の設置などの取り組みがなされており、その点は評価できる。しかしながら目標値に届かなかったので、資料の充実のための資料費確保などを検討していただきたい。 ○ 読書による子育て支援については、幼稚園・保育園へ出向いてのお話会や図書貸出などできないものか。
	SNSによる情報発信	・投稿内容の充実 ・効果的な情報発信	SNSの投稿回数	120回	○ SNSの特性を活かした投稿を工夫し、フォロワーの増加や県内図書館のフォロー、リポスト機能等による情報の拡散・周知に取り組んだ。	136回 （前年度実績 123回 対前年度比 111%）	達成率 113% 評価（5） 100%以上	○ イベント情報や電子書籍サービスのPRをSNSを活用して発信するなど、若年層に向けた周知に取り組んだ。 ○ 次年度以降も、図書館の情報発信に積極的に取り組んでいく。	A	
県立図書館職員の能力の育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	外部講師による研修の参加回数	40回	○ オンライン研修を活用して、臨時休館期間中には研修受講を奨励するなどして、目標達成に努めた。 ＜主な実績＞ ・にいがたPPP/PFI研究フォーラム ・2024年度サビエ研修会（オンライン） ・障害者サービス担当職員養成講座（入門）（オンライン） ・関東地区公共図書館協議会研究発表大会（集合、オンライン） ・こども読書レベルアップ研修会 理論・知識編（オンライン） ・特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」（オンデマンド） ・こども読書レベルアップ研修会 実践・演習編 ・未来の図書館研究所オープンレクチャー ・国立国会図書館資料保存研修 ・JLA認知症バリアフリーオンライン講座 ・全国図書館大会 ほか	50回 （前年度実績 43回 対前年度比 116%）	達成率 125% 評価（5） 100%以上	○ 全国規模の研修・会議等へもオンラインを活用して参加するなど、機会を確保して司書職員の能力向上を図った結果、目標を達成した。 ○ オンライン等を活用するなどにより、次年度以降も研修の参加機会を確保し、図書館サービスの向上を図っていく。 ○ 今後は、回数の他に、スキルの向上度合い等の質的な部分も評価できる目標の設定についても、検討を行っていきたい。	A	○ 「外部講師による研修の参加回数」についても職員のスキル向上に不可欠であるがしっかりと目標値を達成しており、評価できる。
			職員が講師を務める館内研修の実施回数	4回	○ 職員が講師を務め、「レファレンス研修」「障害者サービス研修」「図書修理研修」「郷土資料研修」を実施した。	4回	100%	○ 四つのテーマのうち、希望する研修を一つ受講することで、図書館業務のスキルアップにつながった。また、講師を務める職員は、講義を行うことで知識の定着が図られ、発表のスキルアップにつながった。 ○ 一方で受講後のアンケートでは、難易度や実施方法、今後の研修テーマについて意見が寄せられ、課題が残った。 ○ 次年度計画の立案に当たっては、アンケート結果をもとに内容を改善し、県内公共図書館職員向け研修での講師となる人材を育成する。	A	○ 「職員が講師を務める館内研修の回数」についても、職員自身のスキルがないと実施できないため、職員のスキルを測る上で良い指標といえる。目標値も達成できており評価できる。

令和6年度新潟県立図書館運営基本方針 重点目標 に係る意見

1 地域社会への貢献 全体（今後の取組を含む。）への意見

- ・目標が達成されており概ね良い評価。
- ・全体に異存なし。

2 県内図書館への貢献 全体（今後の取組を含む。）への意見

- ・目標が達成されており概ね良い評価。
- ・全体に異存なし。
- ・学校司書は一人職場であるので、学校内では図書館内の問題について相談できる人がいない職場であると推測されます。こむすびルームの空いている時間などを利用して小・中も含め、学校図書館司書の情報交換の場所にできないでしょうか。「新潟県こども読書推進計画」も決まったことですし、ぜひ司書教諭についても大切にしていきたいと思います。
- ・市町村図書館と連携して県民全体への読書推進事業を増やしてほしい。
- ・県立図書館の役割をもっと発信してほしい。

3 県民の生涯にわたる学びへの貢献 全体（今後の取組を含む。）への意見

- ・引き続き、図書館近くまでの公共交通機関についてお願いいたします。
- ・移動困難者が図書を利用しやすい「相互貸借」の方法などを広くアピールしていただきたいです。
- ・県立図書館 ⇄ 市立図書館 は、知らない人が多いと思います。
- ・読書だけでなく、情報センターとしても活用法を県民へ指導してほしい。
- ・新潟県立図書館ならではの読書推進を期待する。
- ・新潟市だけでなく新潟県各地で学びへの貢献になるような事業を求む。

新潟県立図書館運営全体に対する意見

- ・いずれ建て替えの時期が来るとありますが、アクセス向上やコンパクトシティの観点から、市中心部の県有地等への移転等も検討していただければと思います。
- ・皆さんお忙しい中、評価疲れにならないよう、もう少し手続きや項目を簡素してもよいのではないかと思います。たとえば、3月の協議会で意見はすでに述べましたので、書面による意見提出は不要に思います。
- ・近年、カフェ併設が充実している図書館が多い。また、図書館でタブー視されていた飲食の持ち込みも一部可能になっている図書館もある。貴館も充実について検討を進めていただきたい。
- ・「こむすびルーム」が、軌道に乗りますように応援しています。
- ・皆さまのご意見を伺い、大変勉強になっております。参加するにつけ、図書館の皆さまのご苦勞を県庁の方や、県民の方々に何とか知っていただきたい気持ちになります。
- ・お疲れ様です。目標にむかって日々取り組まれていることが伝わります。
- ・協議会での委員の意見を考慮して、自己評価案を修正して頂いたことを嬉しく感じました。

- ・どうしても毎年同じような取り組みが目立ちますが、単年開催でも数年に渡っての開催でもいいので何か新しい図書館活用の提案を県立図書館から行ってほしいです。どの世代に対しても、これからの図書館を考える時期にあると思います。いつまでも、今までのような図書館が必要なのか？存続するためにはどうしたらよいのか？ 多くの県民と考えて、県予算を獲得してほしいです。
- ・子ども読書に関して、学校地域が一丸となって進めていかなければならない時期だと思います。子ども読書に特化した施策や専門員の配置等を考えて頂きたいです。

委員長によるまとめ

「地域社会への貢献」や「県内図書館への貢献」の目標値は概ね達成されており、図書館職員の方々の日々の努力と研鑽が窺えます。図書館職員の方々の情熱と献身の賜物であり、深く敬意を表します。

にもかかわらず、「県民の生涯にわたる学びへの貢献」の項目でC・D・Eの評価が散見されるのは、図書館職員だけの努力では限界があることを示しており、資料費の削減による影響が大きいと考えます。

特に入館者数・個人貸出冊数・電子書籍閲覧数・児童書等貸出し冊数は、資料費の如何に直結しており、こうした数値の改善には、資料費の増額が必須と考えます。

また、入館者数の目標値については、複数の委員から目標値の再考の意見が出ており、次年度以降の目標値の設定については、慎重に検討をしていただきたい。

令和7年度新潟県立図書館運営基本方針重点目標に係る取組状況(中間報告)

資料 2

基本方針1 地域社会への貢献

・ 定量評価 (5=100%以上 4=90～100% 3=80～90% 2=70～80% 1=70%未満)

・ 総合評価 (A＝成果を上げている (4.5以上)、B＝順調に進んでいる (3.5以上4.5未満)、C＝概ね順調に進んでいる (2.5以上3.5未満)、D＝順調に進んでいるとはいえない (1.5以上2.5未満)、E＝事業の見直しが必要 (1.5未満))

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	中間振返（4～7月実績）	達成率	最終評価（3月31日）	自己評価	総合評価	協議会意見
県の行政施策と連携した取組	県の行政施策をテーマとしたギャラリー展示の開催	・ 県各部局への周知 ・ 展示の実施	県立図書館を利用した所属数	34所属	○ ギャラリー展示は一般県民の利用とのバランスも図りながら、行政連携の充実に向けて引き続き各部局等へのPRに取り組んでいく。 <実績・予定> 7月 土木部道路建設課（にいがた『道』フォトコンテスト実行委員会）「にいがた「道」フォトコンテスト入賞作品展」 10月 環境局資源循環推進課「「食品ロス」削減に向けたパネル展」 11月 農林水産部林政課「にいがたフォレストリーマガジン写真展」 12月 環境局資源循環推進課「「海洋プラスチックごみ」削減に向けたパネル展」	16所属 内訳： ・ ギャラリー展示1所属（前年度同期3所属 対前年度比33%） ・ 図書コーナー設置7所属（前年度同期8所属 対前年度比88%） ・ 図書貸出8所属（前年度同期9所属 対前年度比89%） ※重複除く	47%		○ 現在のところは県民利用が中心であるが、年度後半は行政連携展示が多く予定しており、引き続き行政と連携した展示を進めていく。11月の文化財保護強調週間にあわせ、図書館所蔵貴重資料等の展示を開催するなど、ギャラリー展示の充実を図る。 ○ 閲覧室内でもギャラリー展示に関連したテーマの資料展示も併せて行い、図書館からの情報発信の充実を図る。		
	県の重点施策と関連した図書コーナーの設置	・ 県各部局への周知 ・ 展示の実施			○ 県施策に関する図書のPR展示について、県職員専用ポータルサイトで利用の呼びかけを行っている。申込があった所属に対しては展示に関する要望をできる限り聞き取り、設置後は展示の様子を撮影した写真や利用状況を共有することで、実施の意義を感じてもらえるよう取り組んでいる。 <実績・予定> 4月 新潟県発達障がい者支援センターRISE、県立近代美術館、県立万代島美術館、政策企画課 5月 県立植物園、県立歴史博物館 6月 生活衛生課 7月 県立近代美術館 8月 県立万代島美術館、県立歴史博物館 9月 高齢福祉保健課、新潟県消費生活センター、障害福祉課				○ 県職員専用ポータルサイトでの呼びかけにより、半年先の予約が入るなど多くの所属が利用している。毎年、様々な分野の「〇〇月間」にあわせて活用する所属があるほか、過去に利用した担当者が異動先の部署の施策で依頼されるなど、連携部署が広がってきている。連携した所属の担当者からは「依頼して良かった」とのコメントもいただいている。 ○ 政策企画課を通して当館に移管された岡田紅陽のコンテ画（旧千円札「富士山」複製）公開にあわせ、関連展示を行った。下半期も県民の県行政施策への理解が深まるよう、幅広い部局と連携していく。		
	県所属への図書貸出の実施	・ 県庁貸出の手続改善 ・ 県各部局への周知			○ 県職員専用ポータルサイトで利用の呼びかけを行っている。				○ 定例的な利用がある部署や異動先でも継続して利用する職員がいる一方、まだサービスを知らない職員は多いと思われる。人事課をはじめとする各所属が実施する職員研修の場での資料配布や説明などを通じて、更なる周知を図っていく。 ○ 県庁内所属には図書館が定期的に希望図書を搬入する機会があり郵送料がかからないが、県庁外の地域機関からは郵送料を負担してもらっているため、郵送料の負担を理由に地域機関への貸出に至らなかったことがあった。県庁をハブとして地域機関への貸出ができないか今後検討していきたい。		
文化資産としての郷土資料の収集・保存・活用	新潟県関係資料の積極的収集と活用	・ 出版情報の多角的な把握 ・ 積極的収集と展示 ・ 書庫等の保存環境の整備 ・ 行政資料の収集・展示			○ 出版情報の収集から資料を入手して受入するまでの一連の業務の効率化を図るため、作業を細分化し複数の職員で取り組んでいる。 ○ 閲覧室内での資料展示では、「北前船」や「近代医学」等、郷土と関わりの深いものから、ガイドブックや写真集など親しみやすいものまで毎月テーマを変えて行っている。今後も文書館との連携展示や、利用者の興味を引くテーマで展示を行い、郷土資料のPRに努める。 ○ 現在活躍する郷土ゆかりの作家を中心に、当館未所蔵の資料を遡って購入した。				○ 現在活躍する郷土ゆかりの作家や新潟県が舞台の小説等を積極的に収集した結果、郷土資料の貸出冊数は文学を中心に昨年同期比で増加している。 また、閲覧室内で展示した郷土資料に関連する分野の図書も貸出が伸びている。 ○ 引き続き出版情報を収集し、郷土資料の幅広い収集に努め、新潟県関係資料の充実を図っていく。		
	越後佐渡デジタルライブラリーの充実	・ デジタル資料の追加 ・ 利用環境の整備 ・ 利用者へのPR	越後佐渡デジタルライブラリーのアクセス件数	23,750件	○ デジタルライブラリーのトップ画面でデジタル化資料を様々な切り口で紹介しPRに努めるとともに、更新の都度、ホームページやSNS、県庁のポータルサイトで情報発信を行っている。 ○ 8月には、新潟市内商業施設で県庁PRの一環として、ポスターを掲示した。今後も効果的な広報を行い、新規利用者の獲得を目指していく。	8,383件 （前年度同期7,456件 対前年度比112%）	35%		○ アクセス件数は昨年同期比で約10%増と堅調に推移している。引き続きSNS等を活用しながらデジタル化された資料のメリットをアピールして、目標の達成を目指す。		
	郷土人物/雑誌記事索引データベースの充実	・ データの登録 ・ 県民へのPR	郷土人物/雑誌記事索引データベースのアクセス件数	12,800件	○ 郷土人物/雑誌記事索引データベースのトップ画面で、データベースを活用した調べ方を紹介し、ニーズの掘り起こしを試みている。8月に新規事例1件を追加し、計4件の事例を紹介している。 ○ 本年度もページの更新に加え、採録対象雑誌を追加し、データベースの充実に取り組んでいる。	4,200件 （前年度同期4,053件 対前年度比104%）	33%		○ 昨年同期と比較してアクセス件数は微増である。データ追加時のSNSでの広報等、認知度を高める情報発信を行い、目標の達成を目指す。 ○ 郷土に関する調査・研究に役立ち、かつ目的とする資料を効率的に検索できるデータベースの利点について、活用事例等をPRしながら周知する。		

基本方針2 県内図書館への貢献

・ 定量評価（5=100％以上 4=90～100％ 3=80～90％ 2=70～80％ 1=70％未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	中間振返（4～7月実績）	達成率	最終（3月31日）	自己評価	総合評価	協議会意見
県内図書館等が実施するサービスへの支援	県内図書館等の貸出サービスへの支援	・ 県民へのPR ・ 小規模図書館等へのセット図書の貸出 ・ テーマ別セット図書の貸出	県内図書館等への協力貸出冊数	13,000冊	○ 従来から実施している協力貸出やセット図書長期一括貸出に加え、市町村立図書館等へのテーマ別図書セット貸出サービスを行っている。 ○ 県民に対して直接図書館サービスについて説明をすることができる、貴重な機会である電子書籍サービスの体験会等においては、積極的に相互貸借のPRを行っている。	4,773冊 （前年度同期5,560冊 対前年度比86%）	37%		○ 資料購入予算の制約で長期間にわたり貸し出す「長期一括貸出セット図書」の内容更新が困難なことににより申込が減少したことや、協力貸出の利用減が前年度比マイナスになった要因である。 ホームページやポスター等で県民に対して県立図書館の資料を各市町村の図書館に無料で取り寄せができることを更にPRするとともに、市町村立図書館と意見交換を行いながら利用につなげる方策を検討する。 ○ 市町村立図書館が希望するテーマに沿った図書を当館が選書の上セットにして貸出する「テーマ別セット図書貸出」サービスについては利用が増えている。市町村立図書館での活用例を紹介するなどして更なる利用増を図る。		
	県内図書館等からの相談対応	・ 内容に応じた適切な情報提供 ・ 相談・打合せなど、様々な機会を捉えた訪問の実施			○ 県内図書館等からの相談や照会について随時対応し、状況に応じて支援や情報提供等を行っている。 ＜電話等による相談・照会等対応＞ ・ 県内各館の相互貸借送料取扱い（受益者負担の有無等）の状況 ・ 視聴覚資料の装備の実務 ・ 詩集等編集著作物の複写利用の取扱い ・ 全国の電子図書館・電子書籍の導入率 ＜訪問相談実績・予定＞ 県立村上高等学校、県立村松高等学校、県立新潟中央高等学校、長岡市立中央図書館（オンライン）、柏崎市立図書館				○ 訪問相談の事後アンケート結果では高い満足度が得られており、事業効果を実感している。今後も相談内容に応じた適切な情報提供に努めるとともに、機会を捉えて各館を訪問して情報交換を行うなど、市町村支援の充実を図っていく。		
	高等学校図書館への支援	・ 高等学校への訪問相談 ・ 協力貸出の推進	高等学校図書館への協力貸出冊数	500冊	○ 通常の貸出サービスに加え、昨年度から開始した、所在する自治体の公立図書館等が長期休館のため窓口での資料受け取りができない県立学校について、期間限定で資料を学校へ直接送付するサービスを今年度も実施している。	1,066冊 （前年度同期865冊 対前年度比123%）	213%		○ サービスを積極的に活用する教職員が在籍する高校を中心に貸出冊数が順調に伸びている。現在、サービスを積極的に利用している学校の教職員や図書館司書が異動した場合であっても、当該高校で継続して利用してもらえるよう、さらに異動先の高校でも利用してもらえるよう、引き続きの働きかけや、新規利用校を増やす方策を検討していく。		
県内図書館等職員の人材育成	県内図書館等職員対象の全体研修の実施	・ 図書館現場のニーズに沿ったテーマの設定 ・ 階層別研修等の実施 ・ オンラインとの併用	全体研修会・研究集会の参加人数	350人	○ 新任職員研修会はより多くの参加が得られるよう、集合型とオンラインの併用で開催した。 ○ 関東地区公共図書館協議会研究発表大会も集合型とオンラインの併用で開催し、県内外からは2日間で延べ290人の参加があった。 ＜実績・予定＞ ①新潟県公共図書館新任職員研修会 61人（1日目・会場21人、オンライン10人／2日目・会場22人、オンライン8人） ②障害者サービス研修（第1回）（オンライン） 39人 ③関東地区公共図書館協議会研究発表大会（併・県総合部門研究集会） 103人（1日目・会場17人、オンライン32人／2日目・会場20人、オンライン34人） ④新潟県公共図書館中堅職員研修会 ⑤障害者サービス研修（第2、3回） ⑥新潟県公共図書館児童部門研究集会 ⑦新潟県公共図書館専門職員研修会	203人 （前年度同期160人 対前年度比127%）	58%		○ 研修等の参加者アンケート結果では概ね高い満足度が得られている。下半期も図書館現場のニーズに沿った研修テーマや内容により、一層の研修効果が得られるよう調整し、県内図書館サービスの向上につなげていく。		
	県内図書館等職員対象の個別研修の実施（メニュー数4）	・ 受講者アンケートの実施 ・ 研修内容の改善	個別研修の実施回数	10回	○ 各館の要望を踏まえて研修を準備・実施し、各館のサービス向上を支援している。 ＜上半期の実績・予定＞ ①地域資料の収集と管理の基礎（南魚沼市図書館） ②資料の修理や保存の基礎（新発田市立歴史図書館） ③資料の修理や保存の基礎（胎内市図書館） ④資料の修理や保存の基礎（新潟市立黒埼図書館） ⑤地域資料の収集と管理の基礎（上越市立高田図書館） ⑥郷土レファレンス（胎内市図書館）＜以上7月までに実施＞ ⑦郷土レファレンス（弥彦村図書館）＜以下予定＞ ⑧資料の修理や保存の基礎（三条市立図書館） ⑨資料の修理や保存の基礎（長岡市立互尊文庫） ⑩資料の修理や保存の基礎（五泉市立図書館）	6回 （前年度同期3回 対前年度比200%）	60%		○ 研修の参加者アンケート結果では、高い満足度が得られている。アンケートの回答内容や市町村との意見交換等での要望を踏まえて、下半期も充実した研修となるよう取り組んでいく。		

基本方針3 県民の生涯にわたる学びへの貢献

・ 定量評価（5=100％以上　4=90～100％　3=80～90％　2=70～80％　1=70％未満）

・ 総合評価（A＝成果を上げている（4.5以上）、B＝順調に進んでいる（3.5以上4.5未満）、C＝概ね順調に進んでいる（2.5以上3.5未満）、D＝順調に進んでいるとはいえない（1.5以上2.5未満）、E＝事業の見直しが必要（1.5未満））

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	中間振返（4～7月実績）	達成率	最終（3月31日）	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の読書環境の整備	県民の読書環境の整備	・ 利用しやすいレイアウト変更等 ・ 資料の充実 ・ 電子書籍サービスの充実 ・ 読書バリアフリー環境の充実	入館者数	400,000人	○ 今年度はこむすびルームや電子書籍サービスの利用をきっかけに来館利用が伸びるように各種サービスの広報を積極的に行っている。 ○ 利用者満足度の向上のために、館内利用環境の整備を図りながら、目標の達成を目指している。	102,836人 （前年度同期101,114人 対前年度比102%）	26%		○ 早期の梅雨明け以降、記録的な暑さが続く中、クーリングシエルター的な利用の一面もあって、入館者数は順調とまではいえないが昨年比ではプラスになっている。 ○ 基本的なサービスに加えて預かり保育サービスや電子書籍サービス、ギャラリーや閲覧室での展示等のPRにより、目標達成を目指して取り組んでいく。		
			個人貸出冊数	416,000冊	○ 資料費が年々削減されているが、今年度も限られた予算の中で効果的・効率的な選書に取り組むとともに、閲覧室展示では時事的なテーマの展示や県各所属との連携展示を積極的に行い、資料の利用促進を図っている。 ○ こむすびルームの預り保育サービスの利用をきっかけに図書館の資料を利用してもらえるように、新着図書コーナーのメンテナンスを恒常的に行う等、魅力ある棚づくりに努めている。	124,437冊 （前年度同期127,326冊 対前年度比98%）	30%		○ 資料収集方針に沿って、より効果的・効率的な選書に取り組むとともに展示等による資料のPRを行っているが、資料費削減の影響は否めない。 ○ 児童用の新着図書棚において、貸出された資料の代替資料を速やかに補充する等のメンテナンスによる効果が認められたことから、一般資料の新着図書コーナーについても同様のメンテナンスを行い、目標達成を目指して取り組んでいく。		
			電子書籍閲覧回数	36,000回	○ 8月に小千谷市で県民向けの体験会を開催したほか、新潟市内商業施設で県庁PRの一環として広報するなど、普段図書館を利用しない県民への周知に力を入れている。また、図書館職員対象の会議や訪問研修等の機会も活用し、PRを行っている。 ○ 7月には、県内高等学校司書教諭主催の研修会で県立学校向けサービスの説明会を行った。 ○ 今年度より、SNSで電子書籍の閲覧数ランキングを、月に1度のペースで紹介している。	6,363回 （前年度同期7,491回 対前年度比85%）	18%		○ 様々な取組を実施しているものの、限られた予算で紙の図書資料とのバランスをとる中、提供するコンテンツ数が限られることから、閲覧数は減少傾向にある。利用促進に向け、限られたコンテンツを閲覧してもらえるよう、広報内容を検討し、実施する。 ○ 来館者以外への情報発信として、県内4か所での体験会を秋に予定している。開催地の自治体の図書館ホームページなどでの告知等、関係機関の協力も仰ぎながら電子書籍への興味喚起を促していく。 ○ 既存コンテンツのPRについては、本棚のテーマ入替のほか、SNSや館内掲示等を通じてその魅力を発信していく。		
			県内の読書バリアフリー環境の充実		○ 県視覚障害者情報センター及び県聴覚障害者情報センターと連携して障害者サービス研修（市町村図書館等職員向け研修）を行い、県内図書館における障害者サービスのボトムアップを図っている。 ○ 読み上げや白黒反転表示等のバリアフリー機能を持つ電子書籍や大活字本、LLブック、触る絵本等の障害者サービス用資料の充実を図っている。				○ 対面朗読サービスやデジ―図書の貸出サービスが継続して利用されている。今後も継続した広報により普及を図っていく。 ○ 視覚障害のない児童が、触る絵本を借りて行くような状況も生まれており、障害の有無を問わず、誰もが自分に合った読書ができる環境の整備や資料を充実させていく。		
	県民の調査研究活動の支援	・ 調査相談（レファレンス）機能の向上 ・ 県民へのPR	レファレンス協同データベースの登録件数	40件	○ 利用者から寄せられた調査相談内容から、主に郷土に関するテーマなど、県民の調査研究活動を支援すると思われる事例や関心が高いと思われる事例を選定して登録をするため、事例を精査している。今年度も調べ方マニュアルを登録する予定である。	0件 （前年度同期0件）	0%		○ 現在は登録事例を選定し、データを作成しているところであり、スケジュール通りに作業を進めている。9月以降、順次登録作業を実施していく。		
	読書による子育て応援	・ こども向けイベントの実施 ・ 利用環境の整備	絵本、児童書、紙芝居の貸出冊数	80,000冊	○ 児童コーナーの新着棚が空にならないよう常に資料の補充等のメンテナンスを行っている。 ○ 定例の読み聞かせイベントの継続実施に加えて、ボランティアによる読み聞かせイベントも継続して開催している。 ○ イベントのほかに、マットや椅子の入れ替えなど、こどもたちにとって訪れたくなるような空間になるよう工夫をしている。 ○ 日々の書架整理や新着資料の速やかな配架など、資料提供の基礎的な部分を確実に実施したうえで、読み聞かせイベントなど場としてのサービスの充実にも力を入れていく。	25,676冊 （前年度同期23,212冊 対前年度比111%）	32%		○ 貸出冊数が増加傾向にあるのは、預かり保育サービスの開始や新着棚のメンテナンスが一因として考えられる。 ○ マットを設置した新設の赤ちゃん絵本コーナーは好評である。定例の読み聞かせイベントとボランティアの読み聞かせイベントは共に参加者が増えている。 ○ 各イベントのリピーター及び新規の参加者獲得を目指し、ボランティアと協働して魅力的なプログラム作りや広報を進めるとともに、他機関のイベントと連携した取り組みを検討する。		

項目		具体的内容	指標	目標値	目標達成のための主な取組（実施状況）	中間振返（4～7月実績）	達成率	最終（3月31日）	自己評価	総合評価	協議会意見
県民の 整読書 環境の	SNSによる情報発信	・投稿内容の充実 ・効果的な情報発信	SNSの投稿回数	120回	○ SNSの特性を活かした投稿により、フォロワーの増加や県内図書館とのフォローによる情報発信に取り組む。	39回 （前年度同期28回 対前年度比139%）	33%		○ 連携イベントや電子書籍サービス、越後佐渡デジタルライブラリー等の情報をSNSで発信し、幅広い年齢層に向けた周知に取り組んでいく。 ○ 定例イベントに加え、他機関との連携によるイベントの企画・実施を通じて、利用者層のさらなる拡充を目指す。		
県立図書館 職員の 能力の 育成	職員の研修機会の充実	・研修に参加しやすい環境の整備 ・研修成果の共有と自己研鑽	外部講師による研修の参加回数	40回	○ 関東地区公共図書館協議会研究発表大会の開催館であったため、運営も兼ねて多くの職員が参加・聴講することが出来た。 ＜実績・予定＞ ①図書館司書専門講座（オンライン・集合）1人 ②関東地区公共図書館協議会研究発表大会（併・県総合部門研究集会）22人 ③こども読書レベルアップ研修会 ＜以下、予定＞ ④読書バリアフリー研究会 ⑤北陸地区公共図書館職員研修会 ⑥全国図書館大会 ⑦図書館地区別研修 ⑧全公図サービス総合・経営部門研究集会 ⑨図書館総合展フォーラム ほか	23回（延べ23人） （前年度同期12回 対前年度比192%）	58%		○ 上期は職員の研修機会を確保することができた。 今後予定されている全国規模の研修・会議等には、オンラインでの参加するなど、引く続き研修機会を確保し、司書職員の能力向上を図っていく。		
			職員が講師を務める館内研修の実施回数	4回	○ 昨年度実施したアンケート結果をもとに、実務への活用度を重視して研修テーマを決定し、5月に「児童サービス研修」を実施した。 ○ 下半期は「障害者サービス研修」「郷土資料研修」「図書修理研修」を実施する。	1回 （前年度同期0回）	25%		○ 職員が講師を務める研修について、上期は主に研修内容の検討や日程調整を進めてきており、10月以降に3回研修を実施する。司書職員全員がいずれかの研修を受講することで、図書館業務に関する専門的知識及び実務的能力の向上を図り、図書館サービスの向上に繋げる。		

1 入館者数減少の要因

要	内 容
人口減少(若年人口減少)	・入館者全体の母数が減少する ・若年人口の減少により学習等での継続利用が減少する
高齢人口の増加	・高齢者の増加により外出や移動頻度が低下する(公共交通サービスの縮小により図書館へのアクセスが困難になる)
資料購入費の減少	・予算削減により購入資料数が減少することで資料の魅力が低下し、来館動機が薄れる
インターネットサービスの利用拡大	・電子書籍の導入により来館利用が減少する ・国立国会図書館の個人向けデジタル化資料送信サービスにより来館利用が減少する

目標値の見直しについて(入館者数)

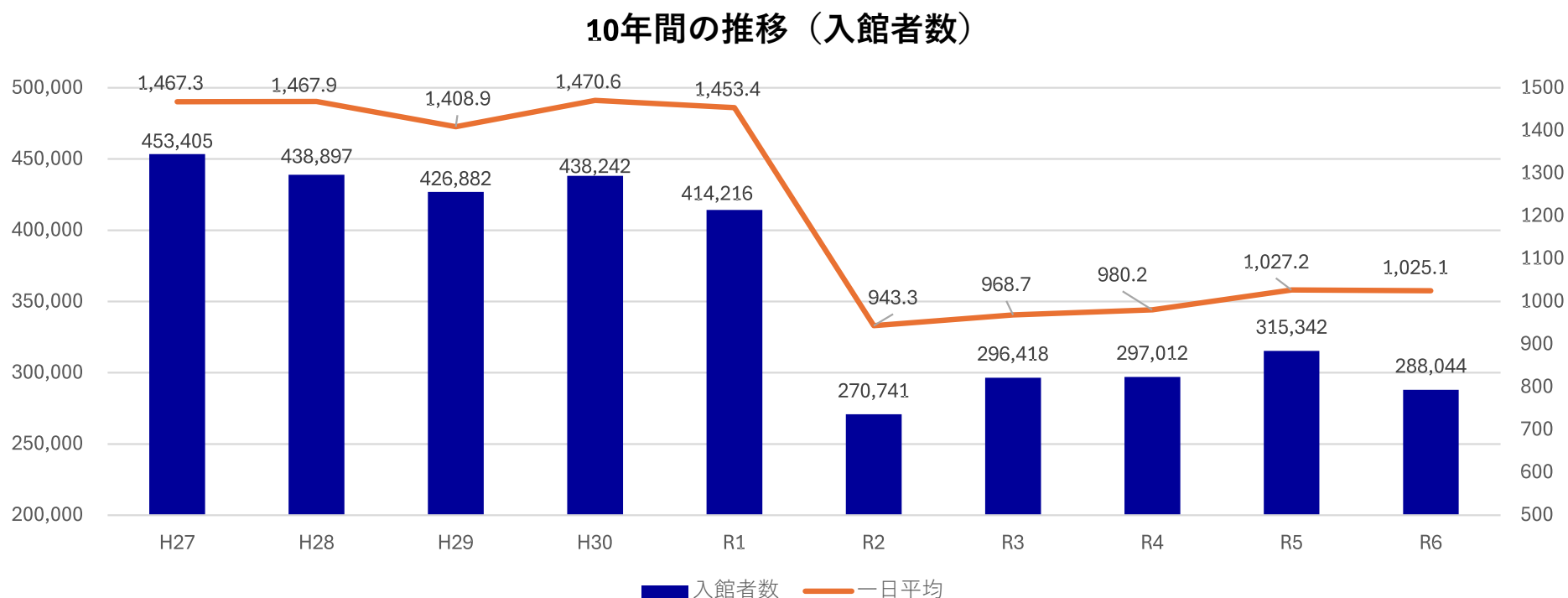
2 定量分析

指標	小項目	内容
人口統計	県人口(総数)	・国勢調査等から得られる新潟県の年度別推計人口データ
	若年人口割合	・国勢調査等から得られる新潟県の年度別推計人口データと年齢別構成比を組み合わせる
	高齢人口割合	・国勢調査等から得られる新潟県の年度別推計人口データと年齢別構成比を組み合わせる
図書館統計	入館者数	・過去10年間の推移を比較
	資料購入費	・過去10年間の推移を比較
	開館日数	・入館者数との相関関係

現状

入館者数

	R5年度	R6年度
目標値	400,000人	400,000人
実績	315,342人 (一日平均1,027.2人)	288,044人 (一日平均1,025.1人)
達成率	78.8%	72.0%

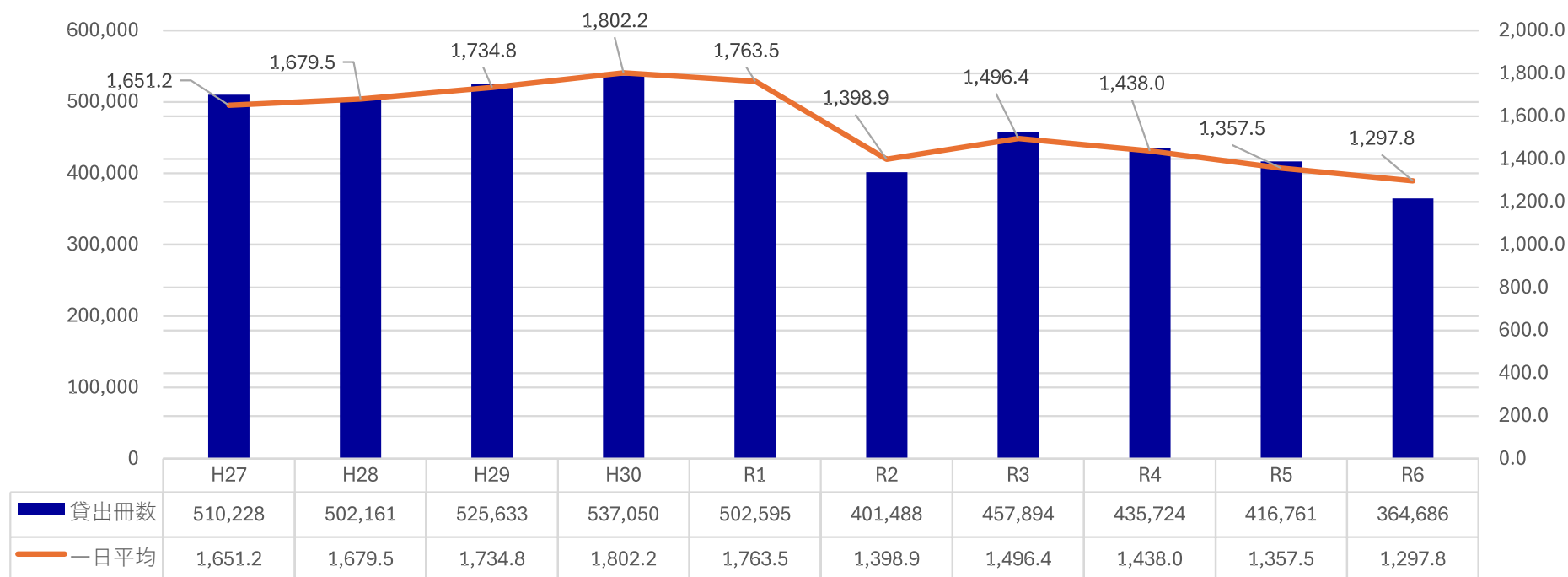


現状

貸出冊数

	R5年度	R6年度
目標値	450,000冊	415,000冊
実績	416,761冊 (一日平均1,357.5冊)	364,686冊 (一日平均1,297.8冊)
達成率	92.6%	87.9%

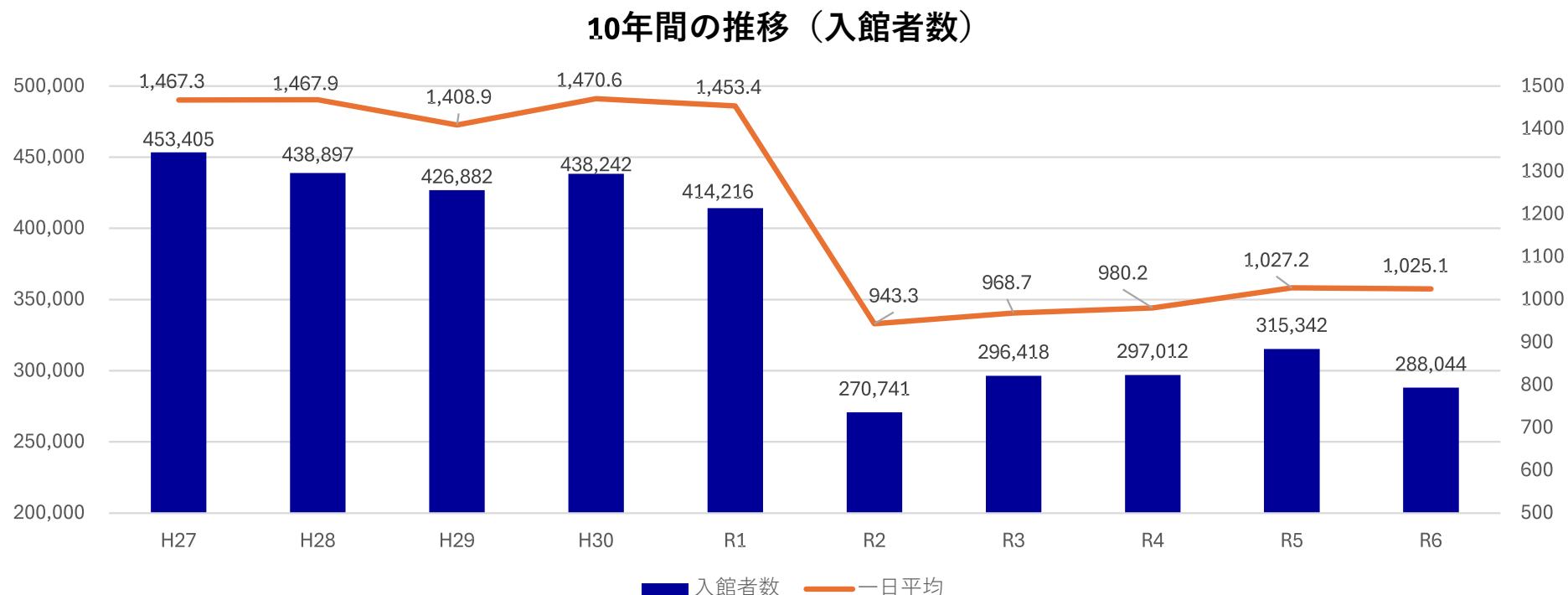
10年間の推移（貸出冊数）



分析

入館者数（一日平均）

	H27年度	R 6 年度
入館者数	453,405人	288,044人
一日平均	1,467.3人	1,025.1人
減少率		▲30.1%

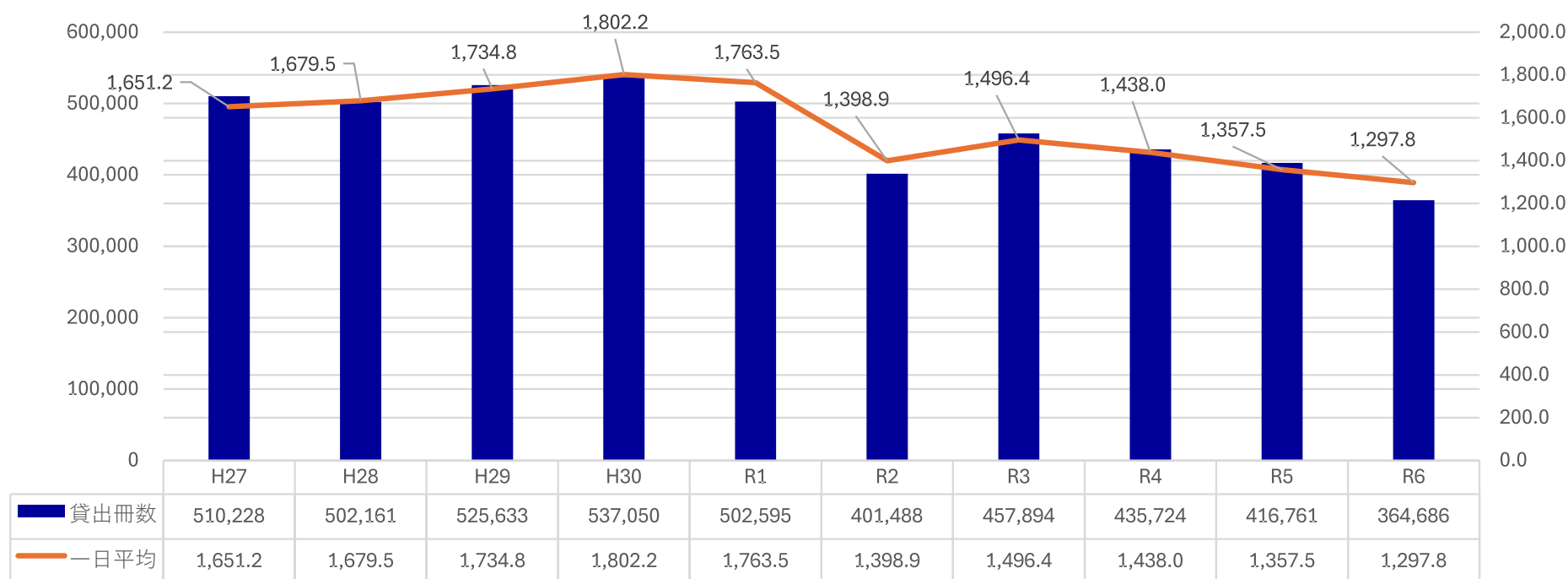


分析

貸出冊数（一日平均）

	H27年度	R 6 年度
貸出冊数	510,228冊	364,686冊
一日平均	1,651.2冊	1,297.8冊
減少率		▲21..4%

10年間の推移（貸出冊数）

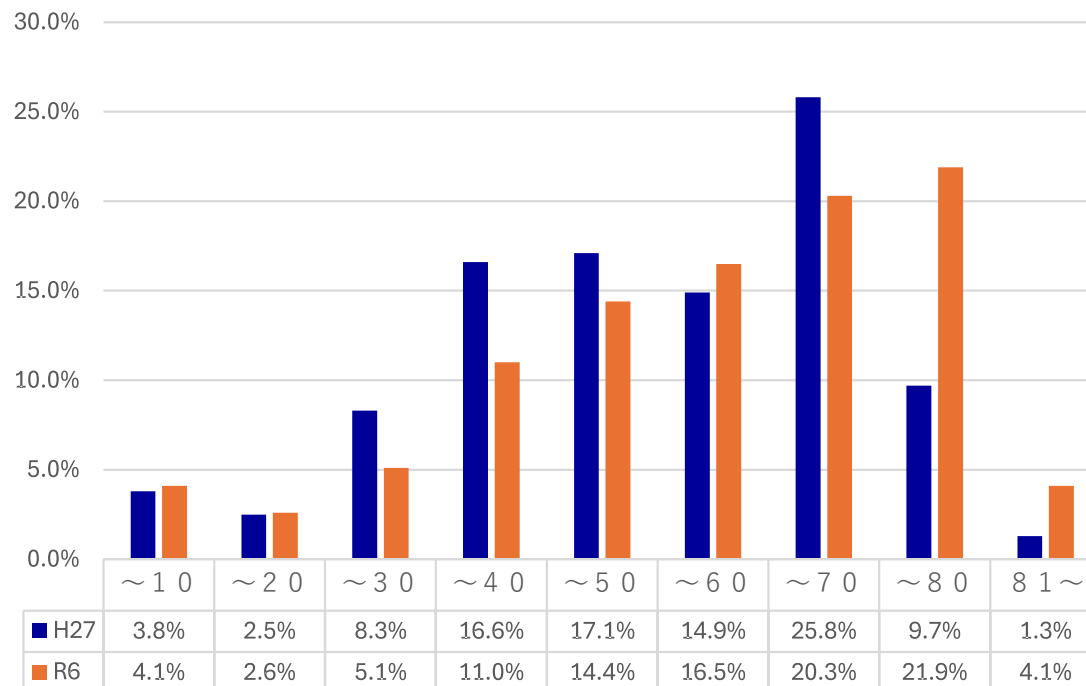


分析

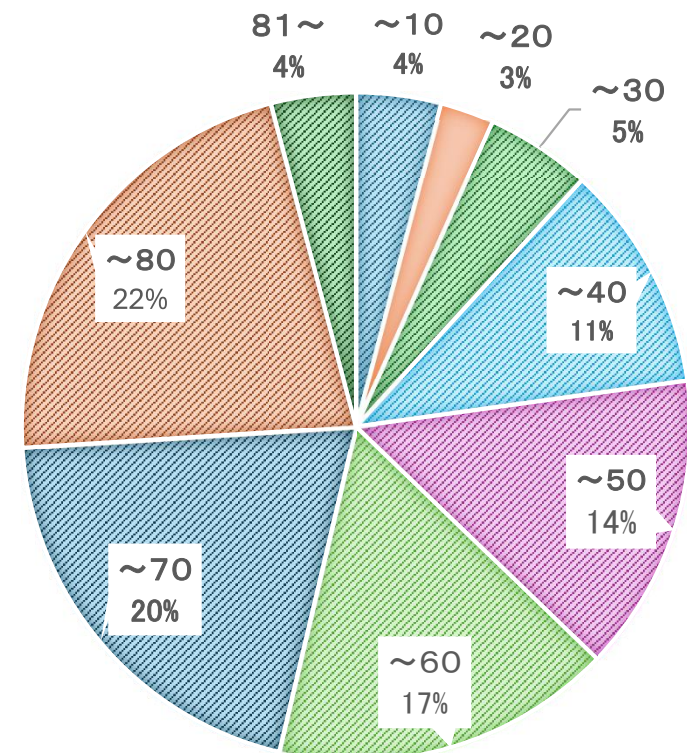
年齢別貸出人数

	H27年度	R 6 年度
0～20代	6.3%	6.7%
30～50代	42.0%	30.5%
60代以上	51.7%	62.8%

年齢別貸出人数比率



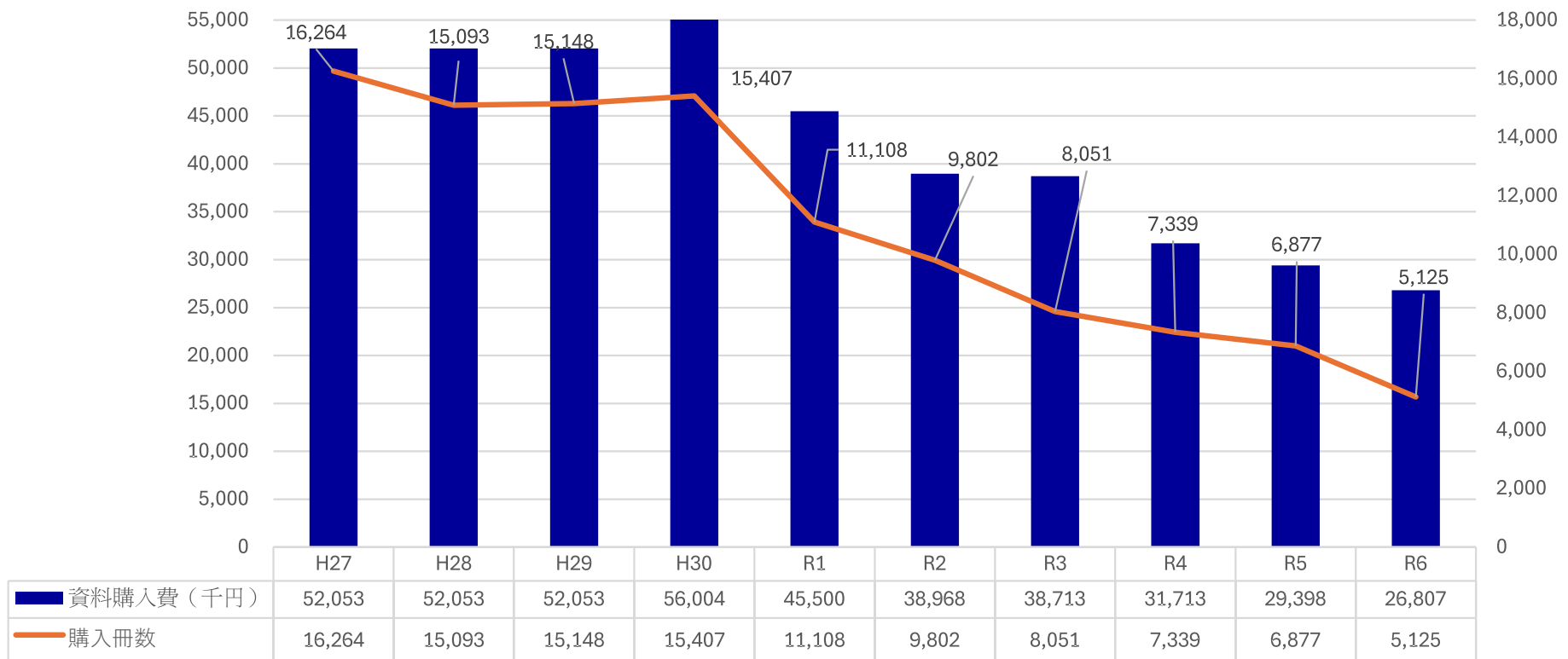
令和 6 年度年齢別比率



資料購入費と購入冊数

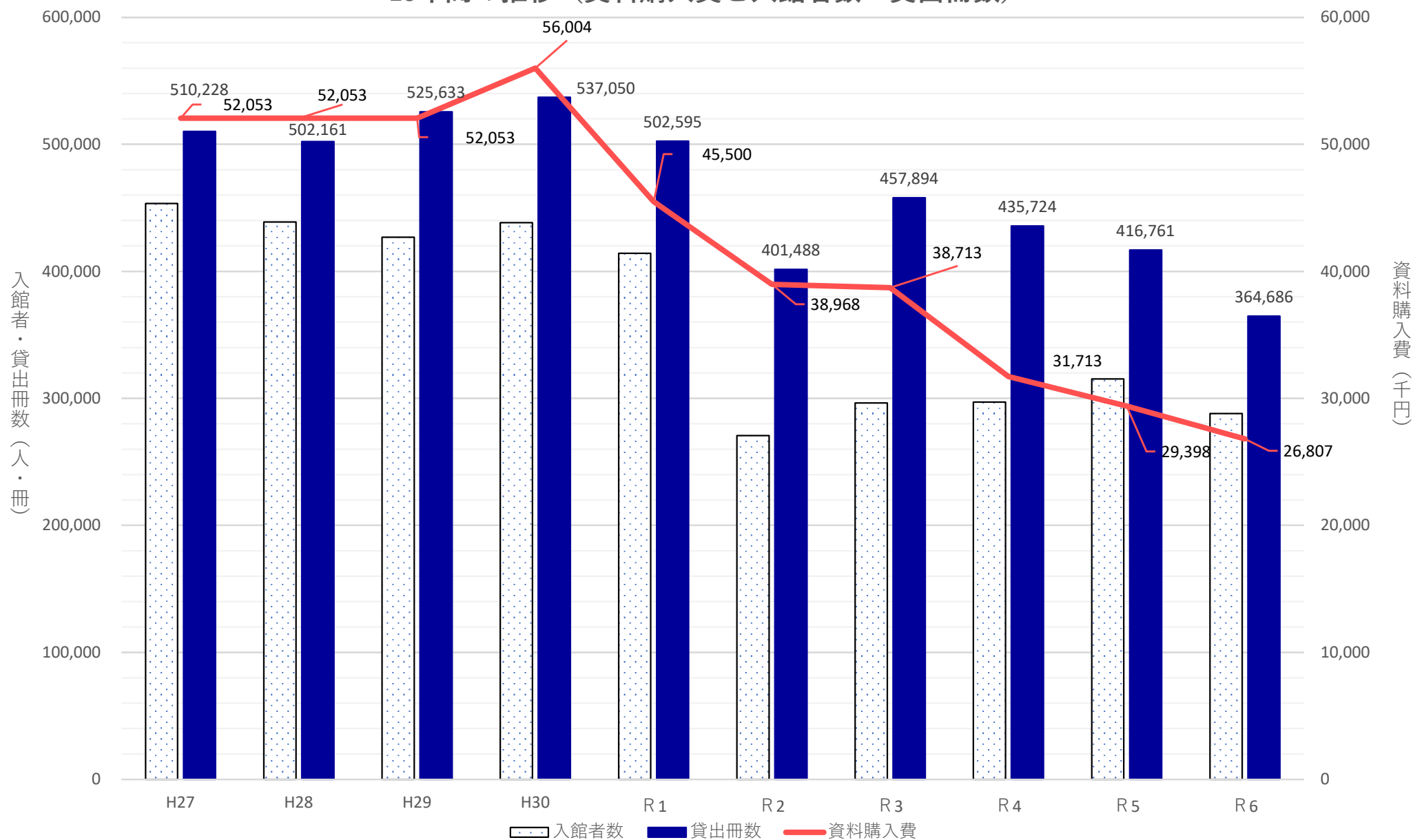
	H27年度	R 6 年度	
資料購入費	52,053千円	26,807千円	
購入冊数	16,264冊	5,125冊	
減少率		▲48.5%	▲68.5%

10年間の推移（資料購入費と購入冊数）



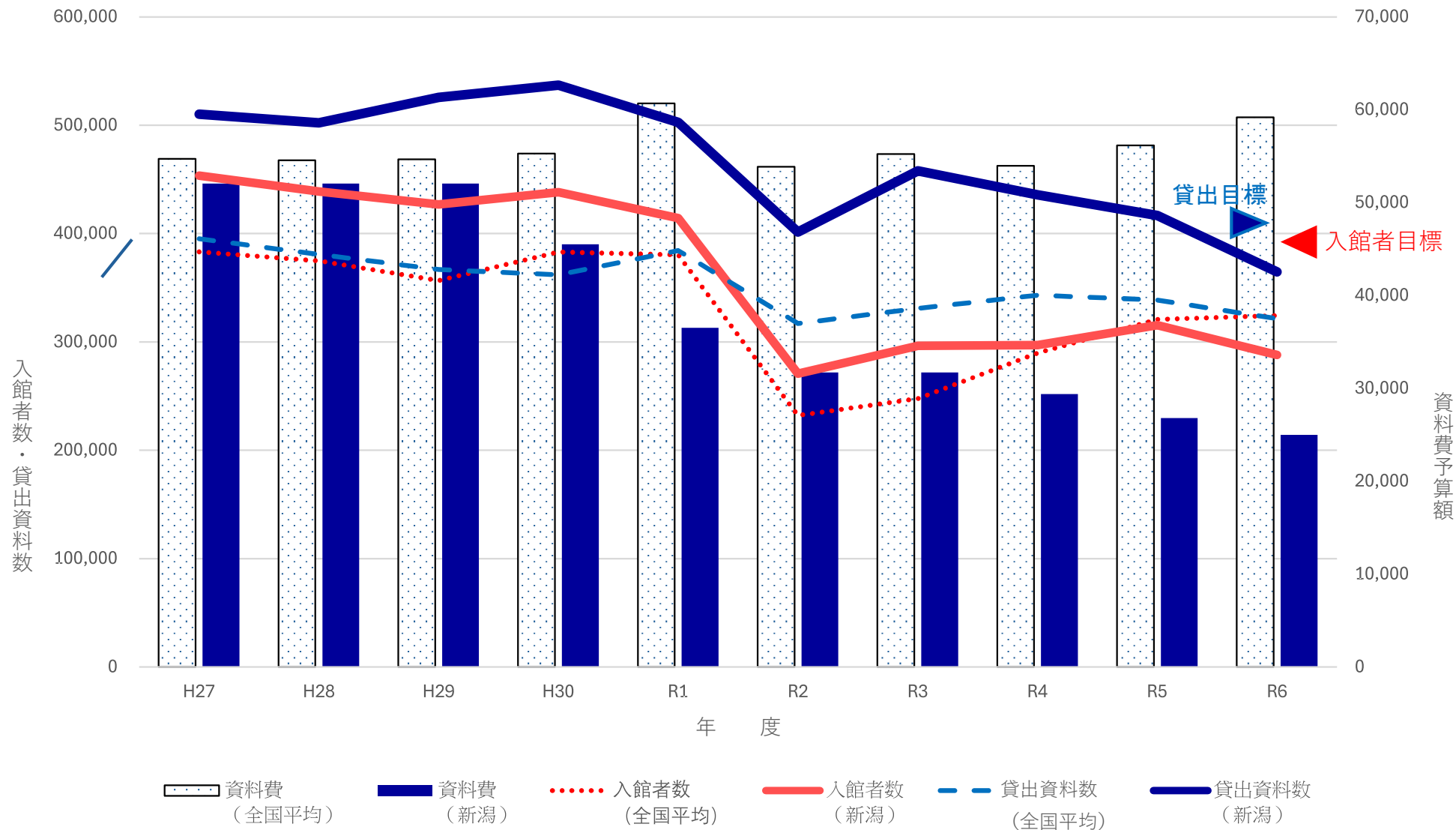
資料購入費と入館者数・貸出冊数

10年間の推移（資料購入費と入館者数・貸出冊数）



分析

全国平均との比較



分析

人口統計

		H27年度	R 6 年度	R 7 年 7 月 1 日 現在（推計人口）
県人口		2,304,264人	2,120.898人	2,075.669人
年齢別 人口 割合	0～ 14歳	275,945人 (12.0%)	225,744人 (10.8%)	—
	15～ 64歳	1,333,453人 (58.1%)	1,156,310人 (55.2%)	—
	65歳 以上	685,085人 (29.9%)	711,904人 (34.0%)	—
減少率			▲ 8.0%	▲ 1 0.0 %

分析

他県比較

	入館者数 (人)	開館日数 (日)	一日平均入 館者 (人)	貸出冊数 (冊)	人口千人当たり 貸出冊数(冊)
全国平均	324,287 (高知県除く)	293	1,098 (高知県除く)	321,474 (東京都、高知県除く)	240
中央値	288,956	290	1,025	236,520	156
人口が全国平均 以上	299,643	293	1,020	246,601 (東京都除く)	50
面積が全国平均 以上	246,689	297	831	211,912	143
人口が新潟県に 近い県(※1)	299,085	287	1,037	311,090	162
面積が新潟県に 近い県(※2)	265,114	297	893	222,904	154
財政規模が新潟県 に近い県(※3)	271,134	287	949	264,906	111
新潟県立図書館	288,044	281	1,025	364,686	172

(※1)150～200万人 12県

(※2)8,000～16,000km² 11県

(※3)1兆円～1兆4千億円 8県

令和7年度・8年度の目標値の見直しの要否

- ・入館者数 400,000人
- ・貸出冊数 416,000冊(R7) 417,000冊(R8)

◆現行目標値の妥当性

◆見直しが必要な場合の方向性

◆目標値設定の考え方

入館者数増加のための取組

- ① こむすびルーム
- ② 図書館主催ギャラリー展示
- ③ SNS等を活用した広報
- ④ 連携イベントの実施

入館者数 目標値について

入館者数	目標値	考え方
A	360,000人	現在の目標値（400,000人）に人口減割合（▲10%）を考慮した
B	330,000人	全国平均値（324,287人）を考慮した
C	300,000人	令和6年度相当を維持する 一日平均入館者数（@1,000人）×平均開館日数（@300日）

貸出冊数 目標値について

貸出冊数	目標値	考え方
A	370,000冊	令和6年度実績（364,686冊）を維持する
B	350,000冊	令和7年度の対前年度比（96.7%）を考慮した
C	320,000冊	全国平均値（321,474冊）を考慮した